

2020

12

淡路町を、神田を、
もっと楽しいまちに。

【ファブ】
F A B

FREE AWAJI BOOK 8890

あらゆる発見、いかなる冒険、
すべての物語は「ふれあい」から始まる

SPECIAL ESSAY

ディエゴ・マルティーナ

INTERVIEW

アンカー・ジャパン株式会社

井戸義経 (代表取締役)

04

ディエゴ・マルティーナ

ESSAY 「ふれあいの神田」

ローマ大学の学生時代、初めて来日し、神田を訪れたというイタリア人の詩人・翻訳家のディエゴ・マルティーナさん。

“あらゆる発見、いかなる冒険、すべての物語は「ふれあい」から始まる。神田では、どんな物語が待っているのだろう——”

心躍る東京への初めての旅を思い返しながら、エッセイを綴った。

ディエゴ・マルティーナ
1986年イタリア生まれ。ローマ・ラ・サピエンツァ大学東洋研究学部日文学科（日本近現代文学専門）学士課程を修了後、日本文学を専攻、修士課程を修了。東京外国語大学、東京大学に留学。谷川俊太郎作『二十億光年の孤独』『minimal』、夏目漱石の俳句集などを伊語訳。
2018年には日本語で書いた自身初の詩集『元カノのキスの化け物』を刊行。

CONTENTS

- 08 Blue Ocean アンカー・ジャパン株式会社
- 10 KANDA ODEKAKE MAP
- 12 【秋葉原〜ワテラス】オススメスポットをワテラスチューデントハウス学生が紹介
- 14 エリマネより情報提供

editor / DTP

橋口 丈 Jo Hashiguchi

photographer (表紙)

小林 玲 Rei Kobayashi

illustrator (裏表紙)

川目七生 Nanami Kawame

詩人・翻訳家

ディエゴ・マルティーナ エッセイ「ふれあいの神田」



photo: Rei Kobayashi

日本と出逢ったのは18歳の時。ローマ大学に進学して日本語の勉強を始めて間もなくの頃だった。当時、日本のことをあまり知らなかった私は、雑誌やネットで集めた情報を基に、より日本を知ろうとしていた。東北の大自然、奈良の古刹、東京の摩天楼——その美しい風景の写真を見れば見るほど、自分の眼で本物の日本を見たくなっていった。そして一年も経たないうちに、大学の友人と二人で観光のために来日した。

欲張って日本各地を旅したかったため、同じ場所には長く留まらず、頻繁に移動する日程だった。そんな訳で、東京での滞在期間も三日間と限られていた。イタリアから持ってきたガイドブックを頼りに、友人と首都を歩き回り、出来る限りの多くの場所を観光しようとしていた。

日本滞在の最終日は、友人と「オタク文化のメッカ」秋葉原に行くことになっていた。ガイドブックには、秋葉原に関

して多くのページが割かれており、これぞ旅の最終日に相応しいスポットなのではないか、と友人が判断した訳だった。

さぞかし秋葉原は、見所が多い観光地であるかのように思い込んでいたのだった。確かに、物珍しく見るものは多かった。

ただ、秋葉原を観光しながらも、私の脳裏からは「神田」のことが離れなかった。そもそも電車で秋葉原に向かう途中の車内で、ふと次の駅名に眼がいったのが事の始まりだった。「神田」という駅名の

その漢字を見た瞬間、日本文学が好きな私は、二葉亭四迷の『浮雲』の始まりを思い出した。

「神田見附の内より、塗渡る蟻、散る蜘蛛の子とうようよぞよぞよ沸出て来るのは、孰れも頸を気にし給う方々。」

「もしかしたら、『浮雲』に出てくるあの神田は、この神田駅の周辺なのかし

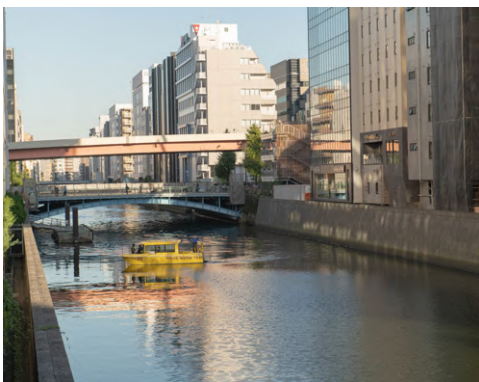
れない。だとしたら、そこはどんな町なのだろう」

どうしても自分の眼でその地を確認してみたくなった私は、午後は神田を観光しようとして友人を説得したが「神田周辺はガイドブックには大して載っていないから、あまり惹かれない。それに秋葉原で行くべき場所は、まだ沢山あるから」と無骨な返事が返ってきたものの、諦め切れず、午後は友人と別れ一人神田へと向かうことにした。

秋葉原の駅に戻ると、高架下に「神田600m」という表示を見つけ、歩いて行ける距離だと知って少し安心した。高架下には隣のビルとの隙間に、どこか可愛いらしいと思わせる狭い階段があった。橋に続くその階段には、立派な江戸文字で刻んだ「神田ふれあい橋」の橋名板が飾ってあった。「ふれあい」という言葉に、イタリア人である私はわくわくしてきた。なぜならば「ふれあい」はイタリア人が

大切にしているものの一つだからだ。あらゆる発見、いかなる冒険、すべての物語は「ふれあい」から始まる。神田では、どんな物語が待っているのだろう——と、突如心が弾みはじめた。

さざなみの踊る神田川の上に掛かる、小さな「神田ふれあい橋」を渡りきり、まっすぐ進むと、赤煉瓦で化粧され



たアーチが連続する高架橋にぶつかつた。高架橋に沿って歩き続けると、ようやく銀座線の神田駅の入りが見える大きな交差点に出た。周りは新築の高いビルばかりで、そのビルからは見渡す限り、事務所や会社の看板がぶらさがっていた。旅行中、こういった風景を日本のどの都市でも見かけていたこともあり、もはやその事には特に大きな感動はなかった。神田の魅力とは何なんだろう、とビルを見ながら思っていると、大通りを横切る、小さな道が視界に入ってきた。その小道から見えてくる景色も、漂ってくる霧囲気にも、何か特別感があり、まるで吸い込まれるようにと、その小道へと入っていった。さっきまで背景を支配していた高いビル達は、ここでは古い二階建て建築に姿を変えた。電柱の電線のもつれは、筆の跡かのように大空に抽象画を描く。その絵に色をつけたのは、小さな店の看板や暖簾や提灯。黒ずんだ壁の



「はい、丁度ここで」と答える私に「素晴らしい。日本文学がお好きなんですね。私もとても好きなんです」

街行く多くのサラリーマンの中で、文学好きな方に出逢うだなんて、本当に不思議なめぐり合わせだった。四方を人に囲まれ、道の真ん中に立ち止まり文学の話をししばらくしていると、Fと名乗ったその人は私を食事に誘ってくれた。

建物は居酒屋、食事処に蕎麦屋。外装のみならず、内装までもが、昔ながらの作りになっているようだ。飲み屋に飲み屋が積み重なる、小道の迷路の街。その霧囲気にうっとりしつづ、しばらく迷路をさまよっていると、突如「神田駅 西口 商店街」のアーケードが眼の前に現れた。商店街は、それまでの「飲み屋の迷路」とは霧囲気が異なつた。商店街のビルはより高く、より新しく、そこには、飲み屋以外の店舗も並んでいた。そして、無味乾燥なアスファルトではなく石畳の敷かれた道路に、赤煉瓦を使った建物があつたりと、どこか「昔ながら」の霧囲気も感じられた。町並みを堪能しつつ道を進むと、商店街のある角に建つ「佐竹稲荷神社」に辿り着いた。神社の横には1856年の地図と現代の地図があつた。見比べてみると、この町の区切れと道の方向は、ほとんど変わっていない現代の神田と、過去の神田。二葉亭四迷が生き

せつかく東京で、いや、日本で過ごす最後の夜ということもあり、喜んでその誘いに応じた。二人で商店街から離れて淡路町の方向に歩いた。その辺にもまた、東京ならではの高いビルの狭間に、小さくて古い背の低い建物が垣間見えていた。色褪せた暖簾や提灯に「江戸前」「梅亭」「六文そば」といった、その歴史を誇る店名ばかりが目立って見えた。旧字で書かれた看板や、酸化して青緑色になった銅板の屋根に外装。まさに町の角々から「過去」が甦っていた。

「こちらです」とFさんが立ち止まった。小さなドアの白い暖簾の「洋食 松榮亭」の中に入ると小さなテーブルに座り、Fさんはメニューを渡しながら「洋風かきあげ」がお勧めです。和食ではないけれど、あの夏目漱石のために作られたオリジナルの一品なので、ぜひ試してみてください。漱石先生の大好物で、よくここに食べに来たそうですよ」

た時代の町を想像しようとしたら、その時に不思議なことが起きた。

ほんの一瞬前まで落ち着いていた町が、賑やかになった。黒いスーツを着て片手に鞆を握った人々が、そこかしこから町に溢れはじめたのだ。陽気に喋りながらあちこちの飲み屋に入り、店内は活気にみなぎっていた。まさに、人が「塗渡る蟻散る蜘蛛の子」というようよぞよぞ沸出た。突然の町の盛り上がる霧囲気に、流れそうになっていた私の背後から「メイ・アイ・ヘルプ・ユー？」と誰かが声をかけた。振り向くと、一人のサラリーマンが立っていた。「あ、結構です。ありがとうございます」と断ると、今度は日本語で話しかけられた。

「日本語ができるんですね。ここには何をしに来たのですか？」

「浮雲」の神田を探しに来ました」

「それは面白い！で、見つかりました？」

「日本語ができるんですね。ここには何も食べられるだなんて、とても驚いた。さっそく頼んでみたところ、出てきた料理は大きな「揚げた肉団子」のような料理だった。

「どうですかデイエゴさん。お口に合いますか？」

「美味しいです！なんだか、どこかで『漱石先生の文学』のような味がする気がしてきませんか？」と、Fさんにめっちゃくちやな質問をすると

「やっぱり？ 私もそう思っています！」と、二人で盛り上がった。

夜中にホテルに戻ると、友人は寝ずに待っていてくれた。

「午後に見た秋葉原もよかったよ。そっちはどうだった？ 神田には何かあった？」と訊ねてきた彼に

「神田にはふれあいがあったよ」と、満足した笑顔で私は答えた。

ハードウェアの力であらゆる人々のスマートな生活を後押しする、アンカー・ジャパン

インタビュアー

代表取締役・井戸義経さん

(文・佐藤智)



◆不便を解消し、よりスマート&快適な生活を提案する

Q. 御社のミッションやビジョンをお聞かせください。

A. 私たちのミッションは「Empowering Smarter Lives」、テクノロジーの力で人々のスマートな生活を後押しするという意味です。弊社では「充電」のグローバル・リーディングブランド「Anker（アンカー）」、オーディオブランド「Soundcore（サウンドコア）」、スマートホームブランド「Eufy（ユーファイ）」、スマートプロジェクトブランド「Nebula（ネビュラ）」という4つの製品ブランドを日本で展開しているのですが、ミッションはすべてに通底します。生活の中で、ちょっとした不便を解消するものも多く、製品を通じてより快適な生活を提案

することを目指しています。

Ankerグループの本社が創業した2011年よりD2C (Direct to Consumer) を軸に事業を行なっています。D2Cは、eコマースを活用することで、自身がメーカーであり、販売店ではないというビジネスモデルです。これにより私たちの元には、お客様から1日1000件近くのご意見やご質問などが直接届きます。こうしたお声を製品の改善や開発、新規ビジネスへとつなげています。

Q. 御社の製品の紹介をお願いします。

A. 最近発売した製品の1つに「Anker PowerCore III Elite 25600 87Wh」という



現代には欠かせないPCやタブレット、スマートフォンへの高速充電を実現するアンカー製品。携帯性はもちろん、デザイン性の高さも大きな魅力。

ポレーションしてみたいことや期待していることをお聞かせください。

A. エリアマネジメントと連携して積極的に地域のみならずとの関係を深めていけるといいですね。地域を盛り上げていけるようなイベントに参加して、コミュニケーションを広げていきたいです。

Q. 今後の展望や挑戦したいことなどを教えてください。

A. 弊社では現在、デジタル機器の充電関連製品からオーディオ製品、ロボット掃除機、スマートプロジェクトまで幅広い製品を展開していますが、これからも真摯にお客様のニーズに耳を傾けていきたいです。そこで得た知見を、豊かな生活に貢献できる機能性を持った製品の開発に活かし、手の届きやすい価格と確かな品質をお届けしていきたいと考えています。

アンカー・ジャパン株式会社

本社：東京都千代田区神田淡路町2-10-1
ワテラスタワー1階

製品情報などは以下のサイトから
「調べたいもの」をクリック
<https://www.ankerjapan.com/>



◆新たな挑戦の場としてワテラスへ

Q. 2020年7月よりワテラスに入居されましたが、オフィス移転にあたり、神田淡路町のワテラスを選んだポイントをお聞かせください。

A. 神田エリアは落ち着いたビジネス街で、5路線も乗り入れている好アクセスが魅力です。商業施設と一体化しており利便性が高いワテラスは、社員から快適だととても評判がいいです。弊社では半年おきに社員の満足度調査を行なっていますが、働く環境への満足度は確実に上がっています。オフィスは清潔

感があり広々としているので、コロナ禍でも安心感を持って働くことができています。社員が増えニーズも多様になりましたが、ワテラスに転居することができ、より多くのメンバーの希望を実現することができました。また、付近の秋葉原にはAnkerグループの製品を取り扱ってくださっている家電量販店もあります。お客様に製品を見て、触っていたる機会が、思い立ったらすぐ見に行けるような場所にあることは社員のモチベーションにつながっています。

さらに、淡路町エリアはオフィスと老舗のお店とが共存する非常におもしろいエリアです。実は弊社の製品は、個人のお客様だけでなく、法人様でご利用いただくケースも増えています。店舗様でもロボット掃除機で清掃作業を効率化いただいたり、スピーカーをお店の雰囲気作りにお役立ていただいたりもできるので、是非ご検討いただければ幸いです。

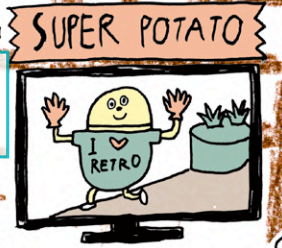
Q. ワテラスはこのエリアの街おこしを担っている淡路エリアマネジメントの活動拠点でもあります。エリアマネジメントとコラボ

魅力がいっぱい！ 秋葉原～ワテラス



A レトロゲームがやれる・買える！
スーパーポテト 秋葉原店
千代田区外神田 1-11-2 北林ビル3～5F

B パーツとツールのマーケット
千石電商 秋葉原本店
千代田区外神田 1-8-6 丸和ビルB1～3F



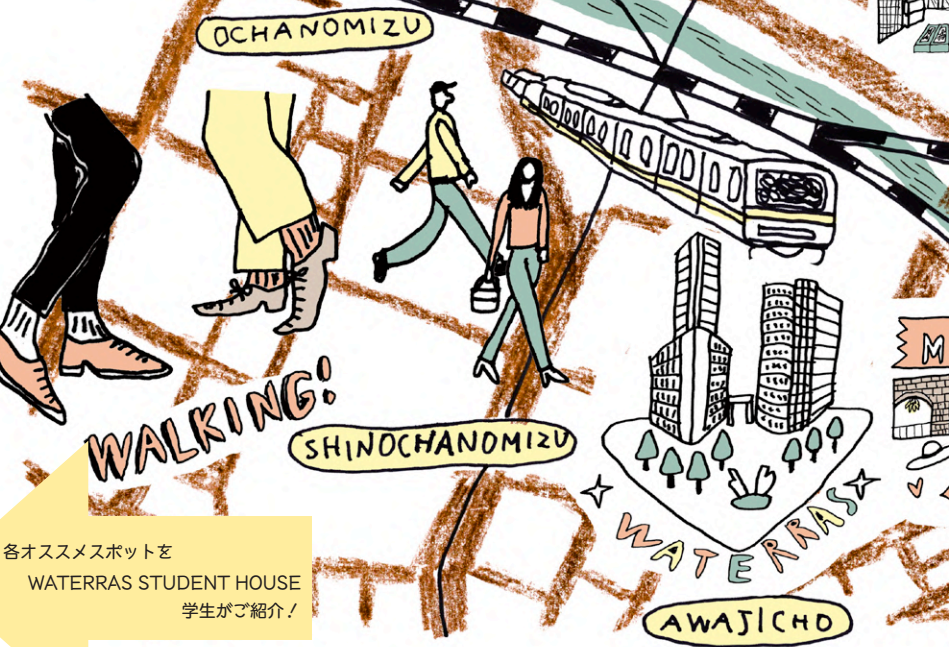
丸五



C 超人気とんかつ屋さん
丸五
千代田区外神田 1-8-14

AKIHABARA STATION

D 神田川沿いのお洒落スポット
マーチエキュート 神田万世橋
千代田区神田須田町 1-25-4



WALKING!

各オススメスポットを
WATERRAS STUDENT HOUSE
学生がご紹介！



オスメスポットに立ち寄りながら 歩いて行こう！ 秋葉原→ワテラス

ガイド：ワテラスチューデントハウス
伊藤鈴・岡田祐佳・門井丈丸・鈴木愛子

秋葉原駅からワテラスまでは、徒歩圏内であることをご存知でしょうか？ しかもそのルートにはたくさんの素敵スポットが！ 今回は厳選して4つのスポットをご紹介します！



人生にもセーブポイントは
あるらしい



レトロゲームがやれる・買える！
スーパーポテト 秋葉原店

千代田区外神田1-11-2 北林ビル3F

スーパーポテトは人生のセーブポイントだ。子供の頃にハマった懐かしのゲームや少ないお小遣いで遊べなかったアーケードゲームが楽しめる。ゲームだけでなく駄菓子もあり、童心に帰って遊ぶことが出来るだろう。人生のセーブポイントはスーパーポテトにあったんだ。



好奇心がくすぐられる！
気軽に入ってみてください



パーツとツールのマーケット

千石電商 秋葉原本店

千代田区外神田1-8-6 丸和ビルB1F

秋葉原といえばディープな電気街。奥に見える電子部品屋さんは一見立ち寄りにくいですがお店の方は皆さんとっても優しい！部品だけでなく自由研究で使えるアイテム勢揃いで、意外な掘り出し物も見つかるかも！？



外に並んでいると美味しそうなのに並んでいると美味しそうないきが漂ってきます！



超人気かつ屋さん

丸五

千代田区外神田1-8-14

柔らかくてジュシーなのに肉の食感もしっかりあり、一口食べた瞬間に幸せになります。ロース、ヒレ、海老フライ、どれも美味しくうで迷ってしまいます。全部少しずつ楽しみたい人は「盛り合わせ」がおすすめです！



散歩でふらっと立ち寄るのもオスメ！

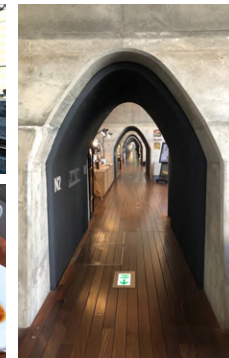


神田川沿いのお洒落スポット

マーチエキュート 神田万世橋

千代田区神田須田町1-25-4

トンネルのようなアーチの下を歩くと、いくつもの魅力的なショップに出逢えます。とてもお洒落な雰囲気のスポットです。2階では至近距離で電車が走行します。食事をする際は神田川に面したテラス席がおすすめです！



かんだ歌宴
CHRISTMAS
CONCERT 2020
IN ワテラス



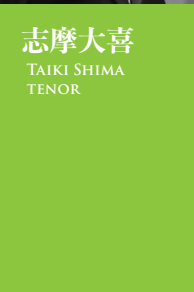
志田雄二
YUJI SHIDA
TENOR



藤岡弦太
GENTA FUJIOKA
BARITON



安保克則
KATSUNORI ANBO
TENOR



志摩大喜
TAIKI SHIMA
TENOR



志田雄啓
TAKEHIRO SHIDA
TENOR



経種美和子
MIWAKO IDANE
PIANO



<https://chiyoda-artfes.com/>

PROGRAM きよしこの夜 神の御子は
ジンゲルベル 他
PERFORMER アンサンブル歌宴フェス

2020.12.12 SAT.

開演 | 14:00 (14:30 終了予定)
場所 | ワテラス広場 (屋外・雨天実施)
参加費 | 入場無料 (予約不要)

かんだ歌宴について
2014年5月に神田出身、もしくは関わりの深い活躍中のプロのオペラ歌手により、声楽技術の更なる向上、更に新しい挑戦を続けることを目的に結成されました。

主催・問い合わせ：かんだ歌宴
Tel：090-5909-5594 E-mail：kanda.piccolo@gmail.com
共催：一般社団法人淡路エリアマネジメント
協賛：株式会社マンセイ社 有限会社ランチョン 廣瀬ビルディング株式会社
あつみ薬品株式会社 サイバー・ネット・コミュニケーションズ株式会社
株式会社柳木屋 株式会社お茶の水不動産
東京神田ロータリークラブ香取純一 株式会社東西堂書店
株式会社アトラス 神田食味連雀会 ショパン 竹むら ぼたん
神田まつや かんだやぶそば 神田いせ源 近江屋菓子店
神田志乃多寿司 松榮亭 株式会社小山用具 有限会社イシザワメガネ
東英興産株式会社
後援：東京神田ロータリークラブ 千代田区
協力：安田不動産株式会社

WATERRAS
BOOK FES
2020

二週間の本のお祭り (淡路エリアマネジメント共催イベント)
ワテラスブックフェスを開催しました

Our Community

淡路町を、神田を、もっと楽しいまちに。

朝日新聞 DIALOG 学生部×WATERRAS STUDENT HOUSE
本の著者と学生の公開ディスカッション「わかりやすさの罪」ゲスト：武田砂鉄



ワテラスチューデントハウスからは赤尾将希君 (左) と内野澤安紀君 (右) が登壇しました。

ワテラスチューデントハウスによる本の展示企画
「わたしの一冊」「みんなの絵本」をワテラスコモンにて展開中



著名な本の作者がワテラスコモンに会場しました (左・茂木健一郎、中央・小巻亜矢、右・米澤穂信)。

もっと詳しくエリマネの活動を知りたい方はホームページをご覧ください。

HP： https://www.waterras.com/awaji_am/

VISIT CHIYODA
千代田区観光協会





WATERRAS

人情・情緒を引き継ぎ
大きなコミュニティをはぐくむ

FAB

17771

フリーマガジンの8890
No.31 (2020.12.01発行)

発行：一般社団法人深田エリマコネジメント
〒101-0063 東京都千代田区神田深田町2-105 マチノエタワー1311
TEL.03-3526-3883 FAX.03-3526-0090 www.waterras.com

編集協力：一般社団法人出版文化産業振興財団 (JPIIC)



¥0